

紙芝居を披露する前原東中の生徒

もてなしが走者後押し

声援に給食…「何より喜び」

秋晴れのコースでは、ランナーを温かく後押しする声援もよてな

25〜35キロ地点

25キロ地点の今津運動公園(福岡市西区)付近では、プロバスケットボールのライジングセファーフ岡とサッカーJ2のアビスパ福岡のチアリーディングチーム、「RFCジュニアアチアダンス」と「アビスパ福岡チアリーターズジュニア」の2チームが合同でランナーにダンスを披露した。小中学生ら約30人が参加。「笑って手を振ってもらいうれしかった」とRFCジュニアの花田千春さん(11)は志



ランナーと笑顔でハイタッチするチアリーター

免町は笑顔で話した。公園近くに住む白水礼子さん(67)、立唐初子さん(66)、原ツヤ子さん(67)の3人は手製の楽器などを手にランナーを後押しした。公園で拾ったどんぐりを15個人入れたペットボトルを上下左右に振りながら音を出し「栗の音で調子をつけはいいね」と白水さん。地元、今津校区の住民は福岡市産の米を使った「ボン菓子」と、地元産のミカンをランナーに手渡した。大園司さん(62)は「おいしい新米を味わってもらいたい」。

糸島市で創業した「牧のうどん」は公園で「豆乳うどん」を提供。消化しやすいように、長めの65分間ゆでた麺をつゆに絡めた逸品。ランナーはツルツと口に含んでい

接するおもてなしエリアでは、恒例の足湯が登場。湯温は41〜42度に設定され、参加者が気持ちよさそうに漬かった。太宰府市の兵連信次さんの3人は疲れが取れるし、体の張りも軽くなった」とほっと一息。完走のご褒美として、ノンアルコールの無料配布もあった。福岡市南区の深川典保さん(39)は「これを持っていった」。グ



お手製の楽器で沿道から声援を送る白水礼子さん(右)、立唐初子さん(中)と原ツヤ子さん(左)

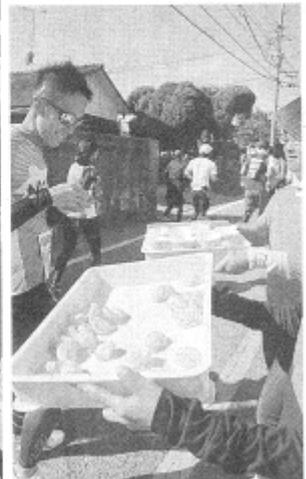
前原東中 五輪メダルに使用済み携帯利用 紙芝居で回収呼び掛け

糸島市立前原東中の生徒が、自作した紙芝居をフィニッシュ会場で披露した。使用済み携帯電話やパソコンなどを回収し、その金属を東京五輪・パラリンピックのメダルに再利用する同五輪・パラリンピック組織委員会の

活動を紹介した内容。生徒会が企画し、美術部とコラボして紙芝居を作成した。回収箱は科学技術部による手作り。12月20日まで同校正面玄関に設置。外部からの持ち込みも受け付け



ランナーに好評だった「豆乳うどん」



▲声援を送るフラダンススクール「フラ・アナ、ハナ」のメンバー

住民が配ったミカンとボン菓子に興味を示すランナー



足湯に気持ちよさそうに漬かるランナー